

平成29年度 政策大綱

はじめに

平成28年度においては、新たな「まちづくり総合計画」に沿ったまちづくりをスタートさせ、「住みよいまち しばた」の実現に向けた確実な一歩を踏み出しました。

全国では、人口の首都圏等への一極集中が進み、若者の流出による過疎化や少子高齢化が深刻な問題となっています。当市では、地域の特性を活かした自主的、主体的な取組によって地域の活性化を推進するとともに、雇用の創出や就労の拡大を図り、地域経済の衰退を抑制していくため、地方創生や近隣市町との圏域形成による取組を進めています。また、「アイネスしばた」「ヨリネスしばた」「イクネスしばた」の完成を契機に、「まちの顔」は、新たな価値と魅力を生み出す市民の活動拠点へと転換していく大切な節目を迎えており、市民が主体となったまちづくりが求められています。

来年1月には、市制施行70周年を迎え、輝かしい未来に向けた新たな一歩を踏み出します。

平成29年度は、人口減少対策として取り組んできた「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の3つの視点を基調に、市民にとって快適で潤いのある生活環境を確立していきます。そして、更なる市政の発展に向け、地域や企業、市民とのつながりを広げ、ここでしか触れ合えない豊かな自然、歴史、文化、そして、人々の笑顔が溢れ、活気に満ちた心温まる「しばたの心^{こころ}」を全国に伝え、定住人口、交流人口の増加を目指した施策を展開します。

○「3つの視点」による「住みよいまち しばた」の実現

少子化対策

人口減少社会を迎える中で、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくためには、早急な取組が求められています。当市にとっても、子どもや若者世代の人口減少が喫緊の課題になっており、また、ライフスタイルの変化による若者世代の未婚化、晩婚化が進んでいることから、より多くの若者が結婚、出産の希望をかなえ、そして、安心して子育てができる魅力的な環境づくりを進めていく必要があります。

産業振興

長引く景気の低迷や人口減少、少子高齢化の進展により、当市の産業を取り巻く情勢は、依然として厳しい状況にあります。産業は、地域の魅力を高め、地域経済の向上、市民の暮らしを支える重要な役割を担うことから、当市の持つ豊富な地域の資源や特性を最大限に活用するとともに、商工業、農業、観光などが連携し、産業振興を進めていく必要があります。

教育の充実

「教育の充実」の主たる対象は子どもたちです。グローバル社会の到来、核家族化、多様化する価値観など急激な社会の変化と、あらゆる分野における実体験の不足やコミュニケーション能力の不足が、子どもたちの間に様々な問題を引き起こしてきました。当市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を育む必要があります。そのためには、望ましい教育環境の実現と教育の質的向上に加えて、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの教育の充実に取り組む必要があります。

これまで、「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の3つの視点を掲げ「住みよいまち しばた」の創造を進めてきました。平成29年度は更に、昨年度10月に策定した「しばた魅力創造戦略」の体系に合わせ、「しごとづくり」「ひとの流れ」「結婚、出産、子育て」「まちづくり」の分野から、定住人口、交流人口の増加に向けた取組を進めます。

しごとづくり（商業、農業、観光など）

○雇用の創出、連携強化、観光振興の拡充

市民が安心できる豊かな暮らしを実現していくためには、現在の経済活動を維持しつつ、新発田の自然、歴史、文化、風土といった資源を活用し、新たな産業振興を展開していく必要があります。そのため、工業団地への企業誘致を進め新たな雇用を創出していくとともに、商業や農業、観光分野を横断した政策展開や広域連携による新たな取組を検討します。また、交流人口の増加による新たな経済効果を創出するため、海外や首都圏等からの観光誘客を促進し、地域経済を支える観光振興を進めます。

○産業基盤の強化・生産性の向上

人口減少を背景に我が国全体が縮小していく現実の中で、産業の育成などの成長戦略を進めるとともにベースとなる産業の経営基盤を強化していくことが不可欠です。そのため、商工業においては、主に中小企業や小規模企業者が活動しやすい環境を整備するため、各種の側面的な支援を拡充し、産業基盤の強化を図ります。また、農業においては、基幹産業の安定した収益拡大を進めるとともに、「農業」や「食」によるブランド化を目指した関係機関との連携体制を構築していきます。これらの取組みにより、市内全体の収益性を上げ、産業全体の生産性を向上していきます。

ひとの流れ（スポーツ、中心市街地、情報発信など）	
--------------------------	--

○交流機会の促進

交流人口の拡大に向けては、地域住民や観光客等の交流の場と機会を増やしていくことによって、人口減少を抑制し、定住へと繋げていくかが求められています。また、地域資源やまちの活気、人の賑わいを魅力として如何に育んでいくかが課題となっていることから、当市の魅力であるスポーツ・カルチャーツーリズムを更に拡充していくとともに、定住を促進する政策展開や中心市街地の賑わいによって、人と人とのつながりを基調とした更なる交流の機会を促進していきます。

○魅力の新たな発信

当市の魅力を効果的に発信しPRしていくために、様々な発信媒体を有効に活用し、時代のニーズに対応した情報提供の充実を図ります。また、首都圏等からの移住、定住を促進するため、対外的に関心度の高い情報の提供を行うとともに、選ばれるまちを実現するため、戦略的なシティプロモーションの検討を進めるなど「住みよいまち しばた」のイメージアップを図ります。

結婚・出産・子育て（出会い、子育て、教育など）	
-------------------------	--

○出会い、子育て環境の充実

少子化や人口減少が進む中、持続可能なまちづくりを進めていくためには、「結婚・出産・子育て」の一連の環境を充実させていくことが不可欠です。出会いや結婚においては、これまでの取組に加え、未婚、晩婚化が進む中、近隣市町との連携によって、出会いの機会や支援体制の充実を図り、結婚観や家庭観の醸成を目指します。また、子育てでは、引き続き待機児童ゼロの実現に向け、あらゆる取組によって安心安全が保たれた子育て環境の整備を進めます。更にはスポーツによる子育て環境を整備していくことで「子育てするなら新発田」のイメージアップを図ります。

○教育基盤の充実

教育においては、学力の向上を最重要課題として、基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりを大切にした教育を推進します。また、地域とのつながりを深め、社会性を育む環境づくりを進めるとともに、施設等の教育基盤を整え、いじめや不登校を解消するための支援を強化し、子どもたちに充実した教育環境を提供します。

まちづくり（防災、生活環境、福祉など）	
---------------------	--

○安心して暮らせる生活環境の保全と管理

近年、自然災害等が多発し、市民の災害に対する危機感が高まってきていることから、災害時に備えた安心安全の基盤整備を進め、市民と一体となった「災害に強いまちづくり」の確立を目指します。また、増加する空き家で発生する火災や犯罪など市民生活への影響を未然に防ぐために、現状を把握し、適正な管理や利活用への検討に取り組みます。生活環境や衛生面では、昨今、頻繁に発生する洪水等の被害に備えた市街地等の水害対策や下水道への接続による自然環境の保全など、市民が安心して暮らせる安全で快適な環境の整備を進めます。

○地域での支え合い、つながる支援

高齢化の進展に伴い、高齢者世帯の増加や認知症を抱えた高齢者への対応が、より一層深刻化することが懸念されることから、自治会、ボランティア、NPOなどの支援を活用し、地域や家族で支える体制の構築を進めます。また、生活に困窮する家庭の子どもなどの「貧困の連鎖」が問題となっていることから、子どもたちへの学習支援や就労、進学へとつながる支援を、今後も継続して取り組んでいきます。

○公共施設等の適正な管理

公共施設等については、今後、老朽化による更新時期を迎え、人口減少や少子化等による利用需要の変化が予想されるなど、長期的視点により、更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うなど、公共施設等総合管理計画により、財政負担を軽減・平準化し、公共施設等の最適な配置を進めます。